１　教育目標

⑴ 本校の教育目標

○　校訓「考える子　たくましい子　思いやりのある子」をもとに、心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざす。
○　人権感覚を身に付け、「ちがいを認め、ともに生きる」児童の育成をめざす。

⑵ 経営方針

○　子どもの成長と幸せを最重視していく。
○　現状をよりよく変えていく向上的、前進的な姿勢を大切にしていく。
○　縁あって出合った東小の教職員と子どもたち、この出合いを大切にしていく。

⑶ 本年度の重点努力目標

【めざす子ども像】　『自ら動き出す子』　　（子どもの主体性の向上をめざす）

『自ら動き出す子』とは、**「自ら考える子」「自ら判断する子」「自ら決定する子」「自ら行動する子」**

〔子どもたちに身に付けさせたい力〕

「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」「人を大切にする力」「人に頼る力」

○**「自ら考える子」「自ら判断する子」**の育成をめざして
・自分自身の思いや考えを持てる子どもに育てる。
・目標と見通しをもって学ぶ子どもに育てる。
・創意、工夫を尊ぶ子どもに育てる。
＊　教師が一方的な指示や強制をすればするほど、結果的に子どもは自分で考え、判断する場を失うことになる。まず「あなた（子ども）は、どう思うのか、どう考えるのか？」という問いかけを大切にしていく。

○**「自ら決定する子」「自ら行動する子」**の育成をめざして
・自分なりの判断に基づいて、発言、行動する子どもに育てる。
・そして、自分の言動に責任を持てる子どもに育てる。
＊　教師には教師の責任がある。親には親の責任がある。同様に子どもには子どもなりの責任がある。
社会生活の円滑な遂行は、各自の責任を相互に果たし合う信頼関係によって成立する。責任が自分自身にあるという考え方を教師、保護者、及び子ども自身のものにしていく。

○**「人（自他ともに）を大切にする心豊かな子」**の育成をめざして
・自分を大切にして、明るく、素直に、たくましく生きる子どもに育てる。
・他者の幸せを思い、公共のために奉仕できる子どもに育てよう。
・美しいもの、価値あるものに感動する子どもに育てよう。
＊　戦後教育の最大の成果は、「自我の確立と自由の獲得」にあると思う。しかし、この成果は同時に「利己主義」を育むことにもなった。かくて「利己主義」は、物質的な豊かさを追求させ、日本は世界に名だたる経済大国となった。しかし、その陰で「心の荒廃」の問題が起き、「心の教育」の必要性が叫ばれて久しい。我々はこのことに深く思いを致し、己のみならず「相手の幸せを願う」「心豊かな子」を育てていきたい。また、「心豊かな子」の意味する中に「美しいもの、価値あるものに感動する心」も含めたい。自然や芸術や言葉の美しさ、価値あるものの素晴らしさに感動できる心の豊かさを育てる。

【めざす教師像】　『自ら動き出す教師』　　（教師の主体性の向上をめざす）

（**『自ら動き出す教師』：「自ら考える教師」「自ら判断する教師」「自ら決定する教師」「自ら行動する教師」**）

〔教師が身に付けたい力〕

「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」「人を大切にする力」「人に頼る力」

この５つの力は、子どもだけに当てはまるものではなく、人として身に付けたい力である。また、教師は、子どもを導くに当たってその基本に「率先垂範」「師弟同行」を置くべきと考える。教える立場の教師自身もできないことを子どもに教育できるはずがない。子どもに要求する前に、その課題を自分自身に向けても課す謙虚な心を持ちたい。こうした考えに立ち、「めざす子ども像」を「めざす教師像」と重ねることとする。

○「自ら考える教師」「自ら判断する教師」をめざして
・あらゆる教育活動において、教師自らが教育の原点に立ち返り、自分なりの意見を形成していきたい。
・人の言いなりに従い、自分で判断しない教師になってはいけない。自分の判断を持ったその上で、謙虚に他者の考え耳を傾けられる教師でありたい。

○「自ら決定する教師」「自ら行動する教師」をめざして
・長いものに巻かれたり、古いものに唯々従っていたりしたのでは自己の確立はできない。自主的、自立的な教師たるべく、常に自己の精一杯の判断をもち、自らの判断と言動に責任を負うことを心掛けたい。

○「人（自他ともに）を大切にする心豊かな教師」をめざして
・とかく我々は自己中心的に物事を考えやすい。他者の幸せを心から願うということはたやすいことではない。互いに長所を学び、短所を補い合う同僚として敬愛し合いたい。これらを自らに課していく時に初めて教師として子どもの前に立つことができると考える。
・とかく我々は旧来のしきたりに埋没して安住しやすい。しかし、そこからは進歩も発展も生まれてはいかない。創意と向上を尊ぶことこそが絶えざる進歩を約束する。自他の創意と向上を尊ぶ教師集団になって初めて学校が活性化されると考える。

【めざす学校像】
○「子どもも職員も日々『知的向上』を求めている学校」
　自らの向上が確かめられることほど嬉しいことはない。そのような喜びを得るために、最も確実な方法は「よく本を読む（ネットの良質な情報を得ることも含む）」とことである。まず教師が優れた情報の入手に心がけて範を示し、そのことを通じて子どもたちに読書（ネットの良質な情報を得ることも含む）の導きをしていきたい。

○「子どもにも職員にも保護者にも『明日が楽しみ』な学校」
　「明日は何が楽しみか』と問われたときに、いつでも即座に答えるものがあったら、どんなにいいだろう。子どもにとっても、職員にとっても、保護者にとっても「明日が楽しみ」な学校を作ってきたい。

○「子どもも職員も『意味あるこだわり』を持っている学校」
　今の子どもたちは、何を見ても、何をしても感動しないと言われることがある。原因は「こだわることの面白さ」を忘れていることにあるのではなかろうか。挨拶は何のためにするのか、なぜ学校に来るのか、もっと楽しい勉強はできないものか、そのような「意味のあるこだわり」をまず教師が身をもって実践していきたい。教師のそのような望ましいこだわりの姿が子どもたちを望ましく感化していくことを期待したい。

○「子どもも職員も『自らの心身の健康管理』のできる学校」
　健康管理は他のすべての努力事項に優先する。しかも、健康管理は本人の意識や努力次第である。教育公務員として、日々何よりも心身の健康を快適に保つことが大切である。そのために、「無理をしない勤務」「自己申告制と協力体制の確立」「早めの休養」を心掛けたい。

以上の取り組みを通して、

子どもたちも、保護者や地域のみなさんも、先生方も 『みんな笑顔の　東「笑」学校』をめざす。